平成20年第１回中原区区民会議

平成20年度第１回中原区区民会議が開催されました。

当日は委嘱状交付、区長のあいさつの後、第２期中原区区民会議で取り上げる検討テーマについて活発な議論が交わされ、その後、環境局地球環境推進室より「カーボン・チャレンジ川崎（ＣＣかわさき)」について報告を受けました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・会場など

平成20年７月16日（水）午後２時０分から午後４時３０分まで

中原区役所５階会議室

会議の傍聴人　１１人

会議次第

・委嘱状交付

・開会

・出席者自己紹介

・正副委員長の互選

・会議録確認委員の選任

・専門部会の設置及び専門部会委員の選任

・議題「第２期中原区区民会議で取り上げる検討テーマについて」

・報告事項『カーボン・チャンレジ川崎（ＣＣかわさき)』について

・その他

正副委員長及び専門部会について

正副委員長

次のとおり委員長１名、副委員長２名が選出されました。

委員長：藤枝重之氏（第１期中原区区民会議副委員長）

副委員長：竹井斎氏（中原区まちづくり推進委員会委員長）

副委員長：鈴木眞智子氏（とどろき水辺の楽校代表幹事）

専門部会

専門部会は、区民会議の円滑な運営を図るため検討テーマや会議の具体的な運営のあり方等について調整する「運営部会」、中原区協働推進事業について区民会議の審議に付すための具体的な検証及び審査を行う「協働推進事業検討部会」及び区民会議において検討

された個別課題の情報収集、調査等を行う「課題調査部会」の３つの部会が設置されました。

運営部会

藤枝重之氏（第１期中原区区民会議副委員長）
竹井斎氏（中原区まちづくり推進委員会委員長）
鈴木眞智子氏（とどろき水辺の楽校代表幹事）
芳賀誠氏（自転車と共生するまちづくり委員会委員長）
藤嶋とみ子氏（中原区文化協会会長）
吉房正三氏（中原区町内会連絡協議会会長）

協働推進事業検討部会

川連昌久氏（中原区商店街連合会副会長）
佐野愛子氏（公募委員）
冨岡茂太郎氏（川崎市中原区社会福祉協議会理事）
本目さよ氏（公募委員）
松原清一氏（中原区自主防災組織連絡協議会副会長）
横川郁子氏（第１期中原区区民会議委員長）

課題調査部会

構成員は、区民会議で取り上げる検討テーマ決定後、第２回区民会議で改めて諮ることとしました。

議題検討における主な委員意見（提案委員別）

・駅周辺の駐輪の問題を取り上げたい。歩道上に自転車が並んでいて、障害者の方が車いすで通るのも困難な状態になっている。場所さえあれば自転車が置かれてしまうので、商店街活動にも、また緊急車両等が来たときにも大変困る。
・環境問題は大事な検討テーマであり、継続して取り組みたい。
・最近、親殺し、子殺し、兄弟殺しなど悲惨な事件が多く起こっている。このような社会環境となったのはどうしてなのかということの検討、また親育ても今後大きな検討課題になる。
・小杉駅周辺には高層ビルが建ち並んでいるが、「我が家の防災ハンドブック」には高層ビルを想定した記述が少ないので検討が必要である。また、子育て中の親子が多く入居しているので、子育て家庭が孤立しないように子育て支援も必要となってくる。
・地震は今あるかもわからない。災害時の防災、減災及び要援護者支援のネットワークを早急に組まなければいけない。
・母親のマナーアップをしなければならない。
・自転車のマナーアップが大事である。夜間にライトをつけずスピードを出して走っ

ている自転車がある。
・高齢者が自分たちの近所にいる子どもを、かわいがるときはかわいがり、しかるときにはしかることで子どもの健全育成につなげていく。
・災害時の支援のためにマップや名簿はでき上がっているが、障害者の方の名簿が完成していない。
・犯罪を予防し、安全・安心のまちづくりのために、学校や地域との連携を密にする活動が引き続き必要である。児童や学校の先生とのあいさつ運動も、地域と学校とのつながりを深くする。
・地域の子どもの健全育成について、子ども会は地域と新しく移住してきた方々との交流ができるよい場所となる。学校、地域の若い母親、町会の役員とのつなげ役にもなる。
・ユニバーサルデザインは、費用はかかるが、これから進めるべき検討課題である。
・学童保育教室に来る小学校１年生を持つ共稼ぎの母親、父親に「中原区区民会議」資料を読んでのアンケートを書いてもらったものを資料３－１の追加資料としてまとめていただいた。若い人と中高年とが中原区をよくするという活動で一体化するには、どのようなことをこの区民会議で取り上げればいいかを考える参考としてほしい。
・将来の子どもたちのために、よい中原を残していく。今であれば武蔵小杉が第２、第３の渋谷、新宿にならないように対策ができるはずである。
・地球全体の温暖化のためにできる活動も中原区から発信していきたい。原油が少なくなって物の値段が上がることに対しても、大人は知恵を出して、対処する仕方を子どもたちに伝えていかなくてはいけないし、無駄のない生き方とかエコ活動に取り組んでいく姿を子どもに見せなくてはいけない。
・小杉のまちがこれからどんどん変わっていくときに、小杉再開発の課題をどのようにしたらよりよい方向に持っていけるか、区民会議の場で考えていくのに今は一番大事な時期である。
・ごみやたばこの吸い殻のぽい捨てをなくすなど小さなモラルの向上をすることから、放置自転車を少なくする運動に広げていきたい。
・上手に子どもをほめて動機づけをして育てることを区民会議を通じてやりたい。
・公園の遊具を多くしてほしい。
・犬の散歩時のマナーや、ごみに関する野良猫対策をお願いしたい。
・文化祭は、中原区文化協会だけでなく大勢の人たちが参加する。皆、手弁当ではつらつとやっている。区民会議でもこの活動を知ってほしいし、協働推進事業の一部に入れていただけるとありがたい。
・災害時の避難所となっている学校の耐震化が進んでいないところがある。地域の人たちが安心して避難ができるよう、この問題をいち早く取り上げる必要がある。

・認定こども園は何のためにつくるのか、メリット・デメリットは何なのか、地域の人たちに知らせてほしい。
・小杉再開発地区のマンションが完成し、これから合計3,787世帯の入居が始まる。人も自転車も子どももふえる。30代、40代の若い世代が多く、子どもも小さい。皆、永住型で中原区に間違いなく根をおろしていく。ＮＰＯ法人小杉駅周辺エリアマネジメントとしても駅前の清掃活動、放置自転車の整備事業を始めた。パパママパークという子育ての事業も始める。区民会議の力をかりて、新住民とのまちづくり活動をしていきたい。
・イヤホンで音楽を聞きながら、また携帯電話を片手で操作しながら走るなど、自転車走行時のマナーが悪い。信号のない交差点は危なくて渡れない。
・自社の工場も過去２度ほど銅の盗難に遭っている。工場協会の立場からは、防犯の課題も挙げられる。
・法人としては育児休業の受け入れ体制をつくり、基準監督署への届け出もしているが、保育所が近くにないために子どもを預けることができない。区内の施設の充実を図らないと、育児休業が本来の意味合いのものにならない。
・小杉再開発地域で何か災害があったときに、中原区が全部それをしょい込むのか。地下室に衣料や食料を備蓄するなど、企業は入居する方の安全等を考える必要もあるのではないか。
・自転車のマナーアップ運動を町会を挙げて展開している。町会の役員、老人クラブ、子ども会、未加入の世帯、合わせて約1,000世帯に資料３－２の追加資料を回覧した。自転車のマナーを取り上げることによって、すべてのマナーに展開していければよい。
・バッジを200個つくり、子ども会に入っている154名の子どもにつけてもらった。子どもがバッジをつけて、親に説明してくれることで効果を波及させたい。
・子ども会の役員にマナーアップ運動の絵を描いてもらい、会館に24枚分のスペースをつくってその絵を飾っている。一般の人に絵を見てもらうことを通して、自転車のマナーアップについて考えてもらいたい。小杉町二丁目町内会が発信して、76町会の大部分がマナーアップ運動をやろうということになれば、中原区はマナーが非常によくなるのではないか。
・自転車のマナーアップについて中原区のキャラクターを考えて運動を展開していきたい。
・腕を骨折するという状態になって初めて、歩道も自転車がびゅんびゅん通っておちおち歩けないことがわかった。荷物をいっぱい持って歩道を歩いていたら、子どもを乗せた若いお母さんに舌打ちされて、物すごくショックを受けたこともある。自転車のマナーをまず第一に取り上げてもらいたい。
・自転車の人が歩道をどんどん通って、車いすの人は歩道からおりて通らなければな

らないような歩道づくりをしている。そういうことも皆で考えていければよい。

・ほかの区では、そこに親が生まれ育った家がなければ、よそ者扱いの地区もある。中原はそういうことが全くなく、自分のような者でも受け入れてくれている。今までよくしてもらった分、今度は我々が新しく来た人たちと一緒に仲よくやっていければよい。

・多摩川を発信の場として、子どもの教育、環境、歴史、文化、観光等に生かしていければよい。

・中原のような住宅密集地で大地震が起こったらどうなるか、もう一度防災のことはしっかり考えないといけない。避難所運営協議会はどういう役割を果たすのか、また大多数は学校以外のところへ避難しなければならないので、その点も真剣に考えないといけない。

・子どもの育成に関連して、親の世代の教育が必要である。

・子どものころから自分の地域のことを考えていくことで初めて、大人になったときに区民会議の取り組みや市政に関心を持つことができる。中高生に対して区民会議を宣伝したり、自治のことを考えてもらったり、町内会を大事にしてもらう取り組みもやっていかないといけない。

報告事項に対する委員からの主な意見・提案

・生ごみや枯れ葉で堆肥づくりをしたり、エコドライブ、温度を28度に設定する、マイはし、マイペットボトル、マイバッグ等、私たちはできることを既にやっているが、それ以上に各家庭でできそうな、もう一歩進んだ形のものがあったら知らせてほしい。中原区から率先してエコ活動の一歩進んだ形ができるなら、やってみたい。そういうことが私たちのこれからの生き方、人に優しいとか、物を大事にするとか、きょうの話に出たモラルにも結びついていくので、ぜひ次の機会にお願いしたい。

・我々中小企業がＩＳＯ14000の認定を受ける際、市から年間予算500万円のうち45万円の助成を受けた。今現在はどれぐらいの予算がとられて、助成を受けられるのか。

→中小企業・事業者への助成は経済労働局の取り組みの一環としてやってきている。経済労働局に確認して、次回、事務局を通じてその状況について報告させていただく。（髙橋主幹）